教育問題について卒論を書く学生におすすめする資料

教育分野で卒論を書く際のテーマ設定に使える本

01『教育学をつかむ』木村元、小玉重夫、船橋一男著 有斐閣

教育学を取り巻くさまざまな問題の「対象」を探ることができる一冊です。公式書評でも言われているように、教育は「誰もが受けてきた、誰もが議論しやすく、誰もが批判しやすく、誰もが期待しやすく、誰もが失望しやすい」ものです。だからこそ、教育学をまずは概論として整理する必要があり、そうすることで自分の琴線に触れる領域を見つけられると思います。

02『教育問題はなぜまちがって語られるのか？』広田照幸、伊藤茂樹著 日本図書センター

続いてこちらは「観点」を養うことのできる一冊。卒業論文を執筆する場合、みなさんはゼミに所属して指導教員からご指導いただくことになりますが、何はなくともまずは自分自身で問題関心を深く堀り、「探究してみたいこと」を発見しなければなりません。本書は教育を社会学的観点でとらえる教育社会学者の２名が、教育問題の語り方・語られ方の注意点を具体的にわかりやすく論じています。

教育学で最近「アツい」テーマを知るために使える雑誌

03『教育』国土社→旬報社（現在）

教育を取り巻くさまざまなトピックについて、学術的に取り上げられている月刊誌です。多くの教育関係の雑誌は特定の分野（「学校教育」「特別支援」「公民館教育」…）を扱いますが、本誌は分野横断的に教育に関わる事柄を扱っています。毎号特集も組まれているので新しい情報がたくさん入る、知的好奇心をかきたてられる一冊です。社会構造などのマクロな視点で研究をすすめたい人に特におすすめです。

04 『総合教育技術』 教育技術連盟

本誌は現職教員向けに発刊されている月刊誌で、中でも中堅教員や管理職を対象としているので実践的な情報がたくさん盛り込まれています。現場の感覚に寄り添った寄稿論文も多数あるので、学校教育を対象として卒論を執筆する方におすすめです。学校教員が今何に困っているのか、今まさに意義深く感じられる研究は何なのかを知ることができます。

05 『週刊教育資料』 日本教育新聞社

本誌は教育に関わるさまざまな調査資料を素早く入手できる週刊誌です。文部科学省に関するデータが主ですが、現場教員のコラムも分厚く収録されているのも特色です。統計データはWeb上で見たほうがわかりやすいという側面もありますが、講読を習慣化しておけばわざわざホームページにアクセスせずとも最新の情報をキャッチできます。

最新情報を入手できるウェブ資料

06 国立教育政策研究所

文部科学省所轄の国立教育政策研究所のホームページでは、教育に関わる政策文書や調査研究の情報がまとめられています。特に「トピックス」のページから、学校教育に関わる文科省調査やOECDの調査報告書が閲覧できます。文部科学省のホームページからでももちろん閲覧可能ですが、「検索が難しい」という方には、まずは情報が精選されているこちらから読み進めることをおすすめします。

https://www.nier.go.jp/index.html

07 独立行政法人教職員支援機構

本ホームページの一番の特色は、教員研修向けに配信されている動画を誰でも視聴できることです。学校教育で重要視されているテーマを授業を受ける感覚で知ることができるメリットがあります。また、ホームページ内で閲覧できる「NITS 調査研究プロジェクト」では、教員養成・現職教育を中心とした学校教育に関わる諸テーマについて取りまとめられていて参照点も多いです。

https://www.nits.go.jp

08 e-Stat

本ホームページでは、政府統計データを幅広く入手できます。教育に特化しているサイトではないので最初は難しいと感じるかもしれませんが、教育に関するデータ以外も入手できるというのはむしろメリットでもあります。各省庁の統計調査は他省庁のデータと見比べにくいのが難点ですが、キーワード検索をかけて複数の統計調査を見比べることでより資料の読み取りが深くなるのでおすすめです。

https://www.e-stat.go.jp/

2022.3.29